

東日本大震災5周年復興フォーラム 福島情報発信分科会開催報告

東日本大震災 5周年 復興フォーラム

～新たなステージ 復興・創生へ～

平成28年6月6日（月）12:30～17:00に
イノホール&カンファレンスセンターで開催しました！

東日本大震災から5年の節目を迎えたこの機会に、震災の経験・教訓を広く共有し、同時に復興の現状を国内外に正確に情報発信することを目的に、東日本大震災5周年復興フォーラムを開催しました。

福島情報分科会では、福島復興や放射線量の現状など、福島の「今」をお伝えするとともに、福島でご活躍の方々によるパネルディスカッションが行われました。

福島情報発信分科会スケジュール

	RoomB1～2	ホワイエB1～2	ラウンジ
13:00			ミニプレゼン 13:00 - 13:30
14:00	フォーラム生中継 13:00 - 15:15		
15:00		パネル展示 & 映像資料展示 13:00 - 17:00	アニメ上映 & イーゼル展示 13:30 - 17:00
16:00	パネルディスカッション 15:30 - 17:00		
17:00			

フォーラム生中継

当日はイノホール内でフォーラムが行われました。申込多数により会場は満員だったため、カンファレンスセンターにて生中継を実施し、より多くの方にその様子をご覧いただきました。フォーラムは以下のようなプログラムで進行しました。

主催者あいさつ

岩手県・宮城県・福島県知事の鼎談
「震災から5年の歩みと将来への展望」

パネルディスカッション
「震災からの教訓と復興・創生へ
～「民」から見た教訓と今後の課題～」

復興支援ミニコンサート



主催：復興庁

復興庁
復興庁
新たなステージ 復興・創生へ

パネルディスカッション「若者にとって魅力ある福島を目指して」

開催にあたり、主催者代表として若松謙維復興副大臣から御挨拶をいただいたあと、開沼 博 氏（立命館大学特別招聘准教授）をコーディネーターにお迎えし、芥川 一則 氏（福島工業高等専門学校副校長）、和田 智行 氏（株式会社小高ワークスベース代表取締役）、須藤 愛美 氏（有限会社南会津高原ファーム代表取締役）、西崎 芽衣 氏（立命館大学産業社会学部4回生）にご登壇いただきました。

皆様には現地で行っている復興に関する取組事例をご紹介いただき、それぞれの視点から「若者から見た福島の魅力」や「これからの情報発信」について意見交換を行っていただきました。特に芥川氏からは福島での市場創造の必要性、和田氏からは若者がチャレンジできる環境としての魅力、須藤氏からは風評払拭のための消費者とのコミュニケーションの必要性、西崎氏からは現地の方一人ひとりの情報発信の重要性について、それぞれの経験や苦難に基づいたお話があり、満員の聴衆も引き込まれていました。異なる背景を持ちながらも、今の大変な状況をチャンスと捉えているなど共通するメッセージもありました。今後の福島の発展のためには、各々の活動の持続と共に多くの方の関心、協力が必要であると結ばれ、閉会しました。



その他展示及びミニプレゼン

@ホワイエ

■ パネル展示

会場には、福島県における避難指示解除の状況や、放射線量の状況、また食の安全・安心に向けた取組（食品検査体制、基準値）を紹介するパネルと、赤べこなどの福島の伝統工芸品が展示されました。

■ 映像資料展示

震災発生時と現在の福島第一原子力発電所の状況の比較などを放映する「福島の今」と、福島の四季をPRする「Feel the Love Fukushima」を放映しました。



@ラウンジ

■ ミニプレゼン

西崎氏より「一般社団法人ならはみらいでの活動などについて」という題目で、楡葉町での1年間にわたる活動やそこから感じた楡葉町や福島の魅力について発表していただきました。

■ イーゼル展示

一般社団法人ならはみらいによる住民インタビュー記事「ならは31人の生の物語」をイーゼルのにて常設展示し、多くの方にご覧いただきました。

■ アニメ上映

福島県のプロジェクトとして株式会社福島ガイナックスが作成した実話に基づく短編アニメ「みらいへの手紙～この道の途中から～」を放映しました。

～ご協力・ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました～